

会 議 録

会議の名称	西東京市総合計画策定審議会第2回会議
開催日時	平成13年9月27日(金) 9時30分から11時30分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎3階庁議室
出席者	倉持委員、武田委員、竹内委員、永田委員、堀越委員、山本委員、小林委員、磯村委員、板垣委員、畑委員(川村委員、荒川委員欠席) (事務局)森田企画部参与、企画課 池澤主幹、櫻井主査、安藤主任 (事務局支援)(株)インテージ 大森
議 題	西東京市総合計画策定審議会第1回会議録について 市民意識調査及び人口推計調査等について 新市建設計画の策定経過及び位置付け等について タウンウォッチングの視察ルートについて 今後の会議日程について(10月~12月) その他
会議資料	(1)市民意識調査票・人口推計調査の概要について (2)西東京市市民意識調査(案) (3)人口推計の考え方 (4)新市建設計画の策定経過及び位置付け等について (5)旧田無市、旧保谷市のまちづくりの計画概要 (6)西東京市タウンウォッチング(案)
会議内容	<input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

発言者名 会長	発言内容
	<p>ただ今から、総合計画策定審議会第2回会議を開催いたします。</p> <p>本日の会議次第の2で市民意識調査及び人口推計調査について後ほど事務局から説明がある予定ですが、事務局より発言の時間がほしいとのことですので、事務局お願いします。</p>
池澤主幹	<p>市民意識調査、人口推計調査について後ほど説明させていただきたいと思いますが、今回の調査を実施するにあたり、調査を委託している株式会社インテージの社会開発地域計画グループリーダーの大森主任研究員に同席していただいております。また、調査関係を担当している企画課の安藤主任も同席しておりますので、よろしくお願いします。</p>
会長	<p>会議次第の2の西東京市総合計画策定審議会第1回会議の会議録について、これは前回確認いただいたように、符号化した委員の発言の会議録が送付されていますが、何かご意見ございますか。</p> <p>(特に意見なし)</p> <p>それでは、この会議録は確認されたこととさせていただきます。</p>
会長	<p>会議次第3の市民意識調査及び人口推計調査について事務局から説明願います。</p>
池澤主幹	<p>市民意識調査・人口推計調査について概要を説明した後、各調査項目の内容については、インテージの大森主任研究員より更に詳しく説明をさせていただきます。</p> <p>(資料1に基づき説明)</p> <p>説明要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この調査の目的は、西東京市の計画的な行政を推進していくために地方自治法に規定された基本構想・基本計画からなる総合計画を策定するにあたり、その基礎資料とするものである。 ・この調査の内容は、人口推計調査については目標年次における人口を推計して、施策事業の方向性を示す基礎資料とする。この目標年次は10年～15年の人口を基として推計をする。 ・市民意識調査と総合計画の関係については、市政全般に関する市民の意識を把握し、新たな施策を展開するための基礎資料とするものである。 ・調査の区域は、西東京市の市内全域、対象者は満18歳以上の男女。通常、20歳以上となるが西東京市のはじめての意識調査ということで、より若い方の市政に対する意識を反映させたいと考えている。 ・調査件数は、15,000人を対象。満18歳以上の人口は、西東京市全体の人口が約18万人で、そのうち18歳以上が約15万人。対象者の約10%である。 ・抽出方法は、住民基本台帳から等間隔無作為抽出。 ・調査方法は、郵送で配送、郵送で回収。 ・調査の時期は、本日調査票の案を示し、それを10月上旬に事前調査をしたい。事前調査は20～30件の市民の方に直接、分かりやすさや見易さをお伺いした上で、本調査に反映させたい。 ・本日の調査票の案については、この審議会で皆様にご意見を伺い、事前調査(プレ調査)を経た後、本調査を11月上旬に実施したい。 ・市民意識調査体系図の説明。 <p>総合計画の下位計画として地域福祉計画という計画があり、本年度から着手している。この地域福祉計画の中には4つ計画があり、それぞれ高齢者、障害者、健康づくり、子育て支援といった計画も策定をすすめて</p>

	<p>いる。地域福祉計画については、高齢者、障害者、健康づくりといった対象者別にトータルで 15000 件実施。</p> <p>子育て支援計画については、トータル 6000 件の調査を行う。</p> <p>それぞれ、総合計画、地域福祉計画、子育て支援計画で調査をかけた内容はデータを共有し有効活用したい。</p> <p>総合計画では 18 歳以上、子育て支援計画ではそれ以外に 18 歳未満の小中学生や乳幼児の保護者にも調査をかけていく。</p> <p>地域福祉計画については、障害者・高齢者、介護を受けている方に調査をかけていく。</p> <p>また、36000 件の調査だが障害者と総合計画の調査については一部重複する対象者が出るということになる（地域福祉計画の調査は障害者全員に調査をかけるため）それ以外は全て重複しないよう抽出していきたい。総合計画から抽出して残った部分から他の調査を抽出する。</p> <p>・調査スケジュールについて説明</p> <p>人口推計調査は、10 月、11 月、12 月にかけて人口推計をするにあたって要因分析、自然要因・社会要因をどの様に取り入れていくのかについてご意見を伺って、12 月中に結果をまとめ本調査に入っていきたい。また、中間報告については適宜審議会の方へ報告させていただきたい。</p> <p>市民意識調査については、8 月から全部署に対し、調査項目に入れたいものがあるか照会をかけて案をまとめている。</p> <p>10 月上旬にプレ調査をして内容の見易さ、わかり易さを検討して、また、審議会の皆さんに内容についてご意見を伺った上で、10 月の中旬から調整し、本調査は 11 月の中旬に抽出、中旬に発送、12 月上旬に回収、集計、分析し、審議会の方には、また、ご報告させていただきたい。</p> <p>次は、意識調査の項目についてインテージの大森主任研究員が説明します。</p>
A 委員	<p>人口推計だが 10 年～15 年ということだが、どちらかに決められないのですか。</p>
池澤主幹	<p>10 年の計画を考えているが、人口推計自体 15 年の目標を立て、10 年スパンで計画を立てていくということです。</p>
A 委員	<p>抽出方法だが、10 番飛ばしということだが、偏りは出ないのか、性別とか地域とか。それぞれの地区での意見が必要ではないか。</p> <p>地区別の計画が必要ではないか。</p>
池澤主幹	<p>先週テストをして実際に一覧表を出したが満遍なく出ていましたので、偏りはないと思います。</p>
大森	<p>地区別のクロス集計もするので、問題はないと思います。</p> <p>一般的に 2000 サンプルくらいで調査をするが、今回は 15000 サンプルということでその点については問題ありません。</p>
会長	<p>それでは、調査票の内容について、説明願います。</p>
大森	<p>資料 1 に基づき説明</p>

大森

説明要旨

- ・総合計画の意識調査に並行して福祉の意識調査もする。各福祉関係の調査の中でも総合計画の中に生かして調査しなければならないところがあり、その調整はまだできていない。皆さんに出しているのはまだ第一校であることをご理解いただきたい。10月にプレ調査をして11月には本調査になるので、11月にはご報告できると思う。
- ・1 ページ目に総合計画の計画期間のことについて書いてあるが、これはたたき台である。
- ・今回の調査はこの設問どおりの調査をすると同時に、この地域に住んだ方やこの年齢層の方がどの様に考えているのかというクロス集計をしていく。
- ・1 ページ目は、ご記入にあたっての注意・お願い等があり、連絡先が書いてある。連絡先は企画部になっている。
- ・2 ページ目は、属性について聞いている。地区の順番はご意見をいただきたい。次は、西東京市に住んで何年か、以前は何処に住んでいたか。これは、以前住んでいた所と西東京市を比較するものである。次は、現在の住まいについて聞いている。次はご職業、通勤通学はどちらか。ご家族の人数。65歳以上の方が何人いるか。お子さんはいるか。一般に年齢層をきけばおおよその年齢層の考え方が分かるが、このような意識調査では年齢というよりはライフステージといった、例えば40歳のお母さんに幼稚園の子供がいれば20歳のお母さんに幼稚園の子供がいるというような、ライフステージの違いである。
- ・3 ページ目は、西東京市市民の日常の行動について聞いている。行動されている方が例えばひばりが丘の商店街を利用者はどの様にしたいと思っているか、また、利用していない人はどの様にしたいと思っているか。様々なクロスができる。記入の仕方は下に記入例を書いて記入しやすいようになっている。ひばりヶ丘や保谷駅等について、どのような交通手段で行くか。
- ・4 ページ目、5 ページ目で西東京市についてのイメージを確認している。一つは現在の西東京市のイメージ。この中に24の項目をいれているが、自分にあてはまるものに丸を入れていく方法である。その他にあればその他、イメージがなければイメージがない。
その他、西東京市がどの程度好きか、住みやすいまちかどうか。今後も住み続けたいか。住み続けたい人はどのような理由で住みつづけたいのか。また、住みつづけたくない人はどのような理由かお聞きしている。
- ・今後10年、20年後の西東京市についてどの様にイメージしているか、どのようになって欲しいか、20項目入れている。これについては今回検討していただきたい。
- ・6 ページ、7 ページは身近な生活環境、行政のサービスの満足度、今後の優先度について確認している。51項目あるが住み良さの評価、保健福祉医療等の評価、教育文化女性参画等の評価、産業振興の評価、行政直接の評価。5つの項目に分けている。例えば、6 ページ目、緑の保全自然環境というのがあるが、日頃の生活の中で、非常に満足しているから非常に不満であるの5つのうちををつけていただく。今後についてはどの様にしたらいいのか、優先度の高いものに をつけていただく。これが最終的にどのような表示になるかということ、満足度の軸と必要度の軸があり、満足度は低いが必要度は高いというように表す。
- ・8 ページ、9 ページでは、市政の関心、広報について、どの程度読んでいるか。中身について、体裁等々要望について。9 ページ目では西東京市のホームページについて聞いている。ホームページを利用したことはある

<p>会長 大森</p>	<p>か。ある人については 13 の 1、13 の 2 で詳しく聞いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 ページ目は、情報化について聞いている。皆さんのインターネットに関する機器について聞いている。情報化の推進ということで問 15、16 で期待、不安について確認している。 ・ 11 ページ目、市民参加について、12 ページまで聞いている。 問の 17 では市内で活動あるいは参加している方についてきいている。 これは西東京市の総合計画ということで、市内に限定しているが、これについては検討していただきたい。取りあえず市内にしている。 問の 17 の 1 では、できない理由を聞いている。問の 17 の 2 では、どのような環境が整備されれば参加しやすくなるか、参加を促すことになるかを聞いている。 ・ 12 ページは、特に市への市民参加、市の行政計画等の形成過程での参加について、どのような形で参加したいか聞いている。 問の 19 と 20 はコミュニティについて確認をしている。問の 20 では地域防災について、助け合いの枠組みや消防訓練や防災訓練を含む地域防災について、どのような事が必要か支援して欲しいか聞いている。 ・ 13 ページ目からは個別施策について確認をしている。これは、市役所の各セクションの中から個別に質問項目をいただいて確認している。 ・ 13 ページ目は、西東京市は 5 つの駅があるが駅のネットワークや駅の整備が課題であるというところから、問の 21 ではひばりヶ丘から保谷、田無等含めてそれぞれにどのような整備が必要か聞いている。駐車場や駐輪場だけでなく、サインや点字ブロック等他にも教えてもらって、考えなければならないところを聞いている。これについてはそれぞれの駅について 3 つずつ枠の中から選んでいただく。問の 21 だが、共同参画についてはどのような形でこの中に入ってくるか検討中である。 問の 23、学習文化リレーションについていくつでも をつけてもらう。皆さんの活動について聞いている。 ・ 14 ページは、問の 24 で生涯学習について、どのような事が必要であるかを聞いている。例えば自主サークル団体等への支援とか、生涯学習を今後すすめていく上でどのような事が必要であるかを聞いている。 問の 25 は介護保険のセクション、福祉関係のセクションと調整をしなければならぬので、これは仮にここに入れていただけである。 問の 26 であるが、これからの町づくりにとってどのような施策が必要かについて聞いている。本来は絞った方が良いが、ジャンルが多岐に渡っているので 5 つくらいを選んでもらってはどうかと思うが、本人が最も重要視する施策ということで下に書いてもらう。 ・ 15 ページの問の 27 はそれぞれの地域の方に住んでいる周辺にどのようなものが必要かを聞いている。これは、ハードだけではなく機能的なところもあると思う。問の 23、地域活動の N P O (これらの表現についても考えていかなければならない) など。 最後に、これまでにお聞きした以外でご意見がありましたらという事で自由記入欄がある。 <p>ほかにも事務局の方から説明がありますか。</p> <p>人口推計についての考え方についてご説明します。 (資料 3 に基づき説明) 基準年、今年から見て 10 年あるいは 15 年の人口を推計しようというのが人口推計である。</p>
------------------	---

	<p>人口の増減を決定するのは、子供が生まれる、亡くなる、転入される、転出されるというような自然増と社会増からなっている。それを含めて次年度の推計、またその次の年となっている。</p> <p>人口推計のフローだがここで大切なのは社会増で、これをどう読んでいくか。一つは都心回帰ということ。ここではひばりヶ丘団地の改修が終わった時、どのくらいの人口増があるのか。前回の田無市が人口推計をした時はひばりヶ丘駅前のマンション等を含めたということがあり、その点についてどうとっていくかというのがある。社会増の動態をどうとっていくかというのが今回のポイントである。その様な自然増・社会増を加味した調整を含め今後の西東京市の増減を出していく。</p>
<p>会長</p>	<p>ご質問をしていただく前に、今事務局から配られた封筒があると思いますが、それについて事務局から説明願います。</p>
<p>池澤主幹</p>	<p>今、調査内容について説明していただいたが、総合計画の調査ということで市政全般にかかわる調査内容である。従って、個別の対象者毎の調査や子育てとかは別途別々の調査を計画しているのでこの調査からは外している。</p> <p>いろいろお気づきの点についてご意見をいただくにあたり、この場でいただくのは難しいと思うので、10月の12日までにご覧いただき、お気づきの点に赤で添削をしていただいで転送していただければと思う。今すぐお気づきの点はこの場で出していただいで、後は赤で添削をしていただいで郵送していただければと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>では、そのことを踏まえて何かご意見があればお願いします。</p>
<p>B委員</p>	<p>調査方法について。クロス集計ということだが、これは二変数間の分析と考えてよいのですか。それとも多変量ですか。</p>
<p>大森</p>	<p>多変量は考えていません。</p>
<p>B委員</p>	<p>それはどうしてですか。</p>
<p>大森</p>	<p>基本的には多変量で分析するよりは、直接クロス集計で分析する方法で十分かと考えています。</p>
<p>B委員</p>	<p>例えば、5ページ、10年後、20年後の西東京市として一つだけ選ぶということだが、ここは重複する人がいるのではないですか。</p>
<p>大森</p>	<p>ここは一つだけよりはマルチで選んでいただいた方がよいと思います。そのとおりだと思います。</p>
<p>B委員</p>	<p>次は6、7ページだが、今後優先度というのは重要になってきます。市民の皆さんが1にをつけてくる率が高いのではないですか。非常に危険性があります。バラまき行政というのは修正していかなければならない。総合計画の中でそういう方向性でいくべきです。ところが住民の皆さんはその認識を持っておられない方が多いように思います。その辺の結果が出たときにどう考えるのですか。</p> <p>また、事務局の方にお聞きしたいのは、この調査というのは総合計画策定の中でどの程度に考えられているのですか。</p>

大森	<p>今回の総合計画策定にあたっては、市の方から市民参加ということが重要であるということをお聞きして、それで15000人という多くの方にお聞きし、どのような施策がどの様に評価されているのか直接市民の方にお聞きするという事を考えています。</p> <p>まだ、何処まで分析するのかというのは検討中ですが、今のところ点数化して皆様にご報告するという形になり、そこから何か見えてくるのではないかと思います。</p> <p>例えば、6ページの緑のことで自然環境の場合、満足度のところ、「非常に満足している」に があれば100点、「まあ満足している」を50点、「どちらともいえない」を0点、「やや不満である」をマイナス50点、「非常に不満である」をマイナス100点と点数化してボリュームを見ていくという事を考えています。</p> <p>その時に満足度と優先度がどの様になっているのか、15000人の方がいらっしゃるのので、多少の分析ができると思います。</p> <p>ただし、これが正しいとか良いとかというのではなく、一つの切り口としてどのあたりに位置しているかを見ようというものです。</p>
池澤主幹	<p>この調査が、どの程度の重要性を持っているかということですが、今回、初めて西東京市の総合計画ということで、市民の方に対しては初めての市全体の調査ということになり、重要性については、持って行きたいと考えています。計画を作るにあたっては基礎資料ということなので、これをすべて計画に反映させるということではないと思います。基礎資料とする中で調査の重要性を置いていきたいと思っています。</p>
B委員	<p>当然総合計画の施策を検討する過程でいくつかのアフターがあると思う。例えばこの審議会もそうだし、また、リーダーである市長の政治的なビジョンの中での位置付けもあると思います。さらに行政や担当者の方々の専門的な観点もあると思います。市民の方々の意見というのは当然重要になると思いますが、その部分はこのような調査で知ることになりますが、最終的にいろいろな人のいろいろな要望というのがあり、それをどれもこれも入れるというのは難しいと思います。最終的にどのような形で合意形成していくのかということ、具体的にどの場でやっていくのかについてお聞きしたいと思っています。</p>
C委員	<p>自分が調査の対象になった場合を考えたが、大量の調査内容を見たとき自分がどう対応するのか。一般の方が山のような調査を要求された場合は面倒だからやめてしまおうという事があると思います。</p> <p>必要最低限でいくのがいいと思いますが、これを貰った場合、普通の人は何分くらいで記入する事ができるのですか。私も街頭でこういったアンケートを取った事があるが、こういった事で30分以上かかるというのはいやになると思います。もっと整理していかなくてはならない部分はあると思います。この調査票は何分くらいを目安にしているのですか。普通どのくらいの回収率があり、このくらいの調査票だとどのくらいの回収率を見込んでいるのですか。</p>
池澤主幹	<p>今回15ページだが、だいたい12ページくらいが適当ではないかと思っています。もう少しコンパクトにできればと考えています。</p>

池澤主幹	最初の住まいや年齢はスムーズにいくと思いますが、3 ページは考えなければなりません。6 ページの所も考えながら記入しなければならないので、設問の順番とか考えなければならないと思います。半分以上いけば最後までやろうかという気になってきます。3 ページくらいで詰まるともういいという事になりかねないので、設問の順番を検討しなければならないと思います。最終的には 10 月の審議会でお示ししたいと思います。
C 委員	回収率はどのくらいですか。
池澤主幹	回収率は今回は郵送なので 50% くらいではないかと思います。訪問で 70% くらいだと思います。
B 委員	やる側の信用度というのは、非常に重要になってきます。 例えば、大学で調査をかけた時は、回収率は非常に少ない。行政の調査になると信用度が増して、回収率が高くなります。 30% でもよしとしているところなので、50% あれば十分ではないかと思います。
会長	他の方は、いかがですか。
D 委員	意識調査についてですが、障害者の方全員というのは、これはまた新たな設問があるのですか。 全員というからには障害者の方が期待することもあるのではないですか。あくまで基礎資料という位置付けだけなのか、それともある程度のサービスが期待できるのでしょうか。
池澤主幹	今回の調査は計画策定の基礎資料という位置付なので、この調査結果が全て計画になるということではありません。その他、様々な委員の方のご意見とか、行政の側の意見とかそういった部分が重なり合って計画ができるということになりますので、ご理解いただきたいと思います。
E 委員	この調査の目的とかをどうやって市民の方に知らせるのですか。 それから、この調査を記入するにあたっての質問は電話をするようになっていますが、例えば、インターネット等で調査に関しての付属説明とかお知らせとかをして、市民の方に情報が提供されるといいと思います。
池澤主幹	市民の周知については、第 1 回目を 9 月 1 日号市報で今年度調査をお願いするというお知らせします。第 2 回目は、11 月 1 日号で福祉と子育て、総合計画を含めお知らせします。それと同時に市報についてはホームページでも載せることになっています。 プレ調査は、10 月上旬にする予定です。プレ調査についてはまちづくり市民会議という市民公募による市民で構成する会議を本年度立ち上げていますが、この中の市民の方に実際に記入していただく予定です。プレ調査の結果も踏まえ、調査内容を検討したいと思います。
会長	ほかになにかございますか。
F 委員	これは個人の名前で行くのですか、世帯主の名前でいくのですか。 例えば、おばあちゃん宛に来ても年のためよく理解できないので家族が書くという事があると思います。同居の家族が書くのはよいのでしょうか。

池澤主幹	<p>全て個人宛です。 一つの世帯の中で場合によっては、2つ3つ行くこともあると思います。 用紙や封筒の色を変えて別の調査であると分かるようにする予定です。 障害の方とか介護の方とか調査対象になっているので、そういったケースについても個人宛に送付しますので、その個人の方に対応していただきたい と思います。</p>
会長	<p>よろしいですか。では次の方どうぞ。</p>
C委員	<p>私は2、3年前、保谷市、清瀬市、その他で広報調査をした事があるが、その時思ったのは、世帯毎の形になるが、昼間家にいる人が書くケースが非常に多いことです。書いてくださる方の属性に偏りがでてきました。一番多かったのはお年よりの方です。</p>
会長	<p>ほかにございますか。</p>
A委員	<p>アンケート調査というのは限られた情報であり限界があると思います。情報化とか市民参加とか、交通意識調査とかを是非調査に入れてほしい。</p>
会長	<p>それはご意見ということで、ほかに、どうぞ。</p>
G委員	<p>昭和40年代から総合計画がどういう価値観の中で動いてきたのかという事を勉強してきたが、昭和40年代は産業問題、昭和50年代は教育が柱になっています。今は何が柱になっているかという個性とか誇りであると思います。端的に言ってどこにお住まいですかと聞かれてどこどこに住んでいると胸を張って言えるところに住むこと、自分の住んでいる所に対する価値観が大きなウエイトを占めています。ご提示の設問の所でも配慮されていますが、ここの中で西東京市の個性や誇りといったものをこの中に入れていただければいいと思います。</p>
会長	<p>それもご意見ということで、ほかになにかございますか。では最後に私から一言。 これは第一校ということですが、今の質問にもありましたが、ぜひ1ページ目の記入にあたってのお願いの所、必ずご本人がお答えくださいとある所に、これは、年齢別・性別などの属性によって分析するので、必ずご本人がお答えくださいと入れてはどうかと思います。 それと、細かい所は沢山あるが、3ページ目、新町の住人として中央線を利用する人がかなりいます。その選択肢が市外多摩地区というのでは抽象的であると思います。武蔵境や三鷹や吉祥寺を生活の拠点にしているという選択肢を入れてもらいたいと思います。その他、通勤通学先と通勤通学先への経路の違いとか、細かい所はたくさんあります。中央線だけは入れて欲しい。新町は生活圏が違い、電話番号も武蔵野です。 それでは、市民意識調査と人口推計調査については先ほどのご意見を含め、12日までに郵送するという事によろしいですか。</p>
大森	<p>いくつか調査の基本ということの説明したいと思います。1つ目はなぜ本人が書くのかということですが、それはご本人の意見を聞くということで、分からない事は分からないでそれが事実なので、別の人が書くということではできません。聞き取りということでご本人の意見を回りの人が聞き取って書くことはできるが、ここに書くのはあくまでご本人の意見ということなのです。</p>

	<p>母数というのは返ってきた人数で、答えた人の人数も答えられなかった人の人数も出ます。</p> <p>2点目は、調査票のページ数ですが、だいたい、総合計画の調査の分量では12ページぐらいですが、今回はそれよりも3ページ多くなっています。ここで大切なことは多くの方に答えていただくことか、それとも少なくとも聞かなければならないことについて書いてもらうことかということです。</p> <p>総合計画で大切なのは属性もですが、行政の行うサービスの評価や行動やイメージ等割愛する事ができないので、もし削るとしたら後ろの個別のところを少しずつプレッシュアップしていかなければならないと思います。最終的にそれも入れなければならぬとなれば、15ページのまま進めなくてはならないと思います。選択は2つあり、1つはより多くの方に書いていただくのか、2つ目は、行政としてこれからの西東京市として聞かなければならないことは今回の調査で聞くのかということです。価値の判断として、15000人の方に送るので統計的な数には何ら問題はないということです。</p> <p>3点目は、5ページの問の6、ここに出ているのは全国どこでも出てくるので、伝統的なものや歴史的な物をイメージするというのであればこの中に入れたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、会議次第の4番目、新市建設計画の策定経過及び位置付けという所を事務局の方から説明願います。</p>
<p>池澤主幹</p>	<p>(資料4に基づき説明)</p> <p>説明要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後予定している基本構想基本計画からなる総合計画については、合併時に策定した新市建設計画を包含してさらに発展をさせていくという関係で総合計画の策定をすすめていきたい。 ・ 新市建設計画については市町村の合併に関する法律、いわゆる、合併特例法の第3条第1項の規定により、合併協議会、これは地方自治法に基づく法定の協議会により策定をする。必ず、合併をする市町村が策定をするということである。 <p>西東京市でも田無市・保谷市合併協議会において協議され、策定された。新市建設計画には、基本方針やまちづくりの方向性、6つの施策体系があるが、こういった内容は法定の協議会の前任意の協議会、田無市・保谷市合併推進協議会が策定した田無市・保谷市新市将来構想、これをベースとしながら当時の田無市・保谷市でそれぞれ継続あるいは、未執行事業で理念的に新市建設計画に合致する事業について、または、合併協議会の委員から特に要望のあった事業を盛り込み、新市建設計画として取りまとめられたものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田無市・保谷市新市将来構想であるが、内容については合併推進協議会、いわゆる任意の協議会において昨年8月策定をされたもので、内容は2本の柱で構成されている。 <p>1つは、田無市・保谷市の合併の意義と効果、もう1つの柱としては新しい市のまちづくり、これをどのようなプロジェクト案ですすめていくのかということで、6つの柱を立てて、それぞれのプロジェクトのまとめをしていった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1つ目の合併の意義と効果については、合併推進協議会で検討し、2つ目の新市のまちづくりについては合併推進協議会の附属機関である、新市将来構想策定委員会で検討した。 ・ 新市将来構想策定委員会では、幅広い市民の意見要望を集約するため、21世紀フォーラムを4回開催し、市民の幅広い意見を聞いてきた。

	<p>従って、新市のまちづくりの検討過程において特徴的なことは、新市将来構想策定委員会で新市のまちづくりを検討する際の素材とするために、ワークショップ形式の21世紀フォーラムを4回開催し、市民の幅広い意見を聞いてきた。</p> <p>市民参加を得ながら身近な課題を明らかにし、課題・問題点を整理する、いわゆるボトムアップ方式である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新市建設計画の位置付けだが、今現在、西東京市において基本指針となっているのは新市建設計画である。この新市建設計画があるのになぜ総合計画を策定するのかということだが、新市建設計画というのは合併特例法に基づき、合併する市町村が必ず策定しなければならないという内容である。 <p>総合計画というのは、基本構想・基本計画・各実施計画からなっている。特に基本構想については地方自治法第2条第4項において市町村が必ず定めなければならない。</p> <p>ただし、総合計画を策定するにあたり、新市建設計画は合併後、市町村が実施する事業の根幹となる事項が盛り込まれているので、新市建設計画の13年度から22年度までの事業は総合計画の方に包含していく。</p> <p>新市建設計画に位置付けられた事業は、国や東京都からの合併に伴う財政支援とか合併特例債という良質な借入金を借入れする事ができる。西東京市は新市建設計画の589億円、10カ年の事業を確実に実施していく。この新市建設計画に位置付けられた事業を総合計画の中に包含して、さらに発展をさせていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西東京市における総合計画の位置付けは、総合計画が最も上位の計画に位置付けられる。現在のところこの西東京市の総合計画と直接関連付けて策定を予定しているのが、7つの計画、地域情報化計画、男女平等参画推進計画、環境基本計画、地域福祉計画、都市計画マスタープラン、教育計画、生涯学習計画、さらに、地域福祉計画であればその下にそれぞれの部門別の個別計画がある。高齢・介護・障害・健康づくり・子育てといった内容である。総合計画と直接関連付けてはいないが間接的に整合を図っていかなければならない計画は、地域防災計画、一般廃棄物処理計画、農業振興計画、商店街振興計画である。これについては上位の東京都の計画や、一般廃棄物処理計画であれば柳泉組合とか、その構成二市の東久留米・清瀬と合わせて策定をする。それぞれ総合計画とは切り離して策定をしていく。
会長	<p>ただいま説明があった、新市建設計画の策定経過とその位置付けについて何かご意見ございますか。</p>
A委員	<p>西東京市の総合計画というのは、その下に7つの計画が付くということですがその整合性をチェックするシステムはあるのですか。</p>
池澤主幹	<p>今年度着手しているのが総合計画と地域福祉計画とそれに付随している部門別計画です。総合計画と地域福祉計画と部門別計画はこの7月から3つの部署で計画策定の調整会議を設け、お互いの計画の進捗状況を報告しながら整合性を図っています。1つの事例は、今回意識調査をするにあたり、お互いに出た結果についてはそれぞれの計画に反映していくことになっています。また、企画部所管の行革本部と情報化推進委員会が共同で開催されることにより、企画部において行財政改革、地域情報化計画との整合も図ることが可能と考えています。</p> <p>残りは14年度からスタートしますが14年度も同じように整合性を図っていきたいと思います。</p>

A 委員	三部門というのはどこですか。
池澤主幹	三部門は総合計画の担当部署の企画部と、地域福祉計画の担当部署の保健福祉部と、子育て支援計画の担当部署の児童青少年部です。 その三部署で現在7月から計画策定の調整会議を開いています。
会長	ほかにありますか。
A 委員	図の中の交通安全計画というのは点線になっていますがこれは何ですか。
池澤主幹	これは都市計画マスタープランと直接連動してくるのが住宅マスタープランと緑の基本計画というのがありますが、交通安全計画というのは都市計画街路の事業計画が中心で、直接は連動していません。現在進めている都市計画街路事業の計画が中心になっている。 交通の概略については昨年新しくできた法に基づき策定します。これを都市マスタープランと直接連動はしません。
会長	よろしいですか。それでは、会議次第の5のタウンウォッチングのルートについて、事務局から説明願います。
池澤主幹	(資料6に基づき西東京市のタウンウォッチング案について説明。)
会長	日程については最後に決めるとして、コースについてご質問ございますか。
A 委員	行った場所でそれぞれの責任者に話しが聞けるのですか。
池澤主幹	バスから降りて視察する所についてでよいですか。
A 委員	ひばりヶ丘団地については都市基盤整備公団から来ていただくわけができるのですか。
池澤主幹	降りていただく予定の合併記念公園とひばりヶ丘駅周辺の2箇所に担当者を配置するというのでよいのですか。 ひばりヶ丘周辺については本年度と来年度にかけて整備計画を策定するので具体的な図面はありません。 合併記念公園については懇談会の内容含め担当者に話を聞くということで、保谷駅については北口については街路事業、南口については再開発等という位置付けで担当者に確認したいと思います。ひばりヶ丘団地についても担当者に確認をしたいと思います。
H 委員	柳沢駅についても加えていただければと思います。
会長	ほかにございますか。
F 委員	ひばりヶ丘駅近くの都営住宅の跡地は現在どうなっているのですか。
池澤主幹	東京都と都市基盤整備公団で土地を交換するという協議が整っています。
A 委員	広域避難場所になっている東大農場は行かないのですか。
池澤主幹	合併記念公園から見渡せるようになっています。

会長	最後に今後の会議日程について事務局から説明願います。
池澤主幹	第1回の審議会以降、事務局で事前に調整をさせていただきましたところ、10月は25日の午後が6人、11月は22日の午前が8人、12月は27日の午後が8人ということで、最も出席可能な委員さんが多い日時ということになっています。
会長	この日程で出られない方は、10月は欠席者最大4名、11月は4名、12月は3名という事ですが、この日程で決定させていただきたいと思います。1月からの日程は11月の審議会で決めたいと思います。最後にその他ということで事務局からなにかありますか。
池澤主幹	事務局から提案をしたいのですが、これから15年8月までこの審議会を開催していくわけですが、できれば委員の親睦を図るということで、タウンウォッチングの後に懇親会を開催させていただきたいと思います。10月25日(木)午後5時ごろから2時間ぐらい、会場は田無駅近辺、3000円ぐらいの会費制で考えているのでよろしくお願いします。
会長	先ほどの会議に都合がつかない方も時間的に出席できるようであればご出席願いたいと思います。